

# 池田文書の研究(57)

## 著名人の書簡(経歴判明の人を含む)(その7)

### 池田文書研究会

#### [233] 松野久良々の書簡(前承)

3 1879年(明治12年)12月9日 (3378)  
 拝啓、前回のお薬ありがとうございました、下痢はおさまりましたが食欲の方はまだ完全には復帰しておりません、やたらと満腹感があります、できましたら別のお薬をお願いいたします、今週中に熱海のための指導を受け取りに伺えたらと思います、今月十四日に出発する予定でいます、敬具  
 松野クララ

#### 4 1879年(明治12年)12月29日 (3377)

拝啓 池田先生  
 拝啓、先日戴きましたお薬ありがとうございました、間違っただけ自身をのんでしまい、その後ひどい充血にみまわれました、下痢の方はやみまして、しかし舌にはまだいくらか舌苔があります、食欲はまだあまりすぐれず、胸の苦しさははまだ頻繁にあります、もう一度同じお薬を服用しましょうか、それともまた違うお薬を処方されるのでしょうか?、使用人についても感謝しております、敬具

東京下二番町十一号 松野クララ

(注) この2通は松野久良々の名刺の裏から表にかけてドイツ語で細かく書入れられている。本文は大塚恭男氏の翻訳による。

#### [234] 松原新之助の書簡

松原新之助は明治・大正期の動植物学者。新之助の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に2通掲載に付省略、未掲載分を記す。

#### 3 明治13年1月 日 (3343)

謹て新年ヲ祝ス、弥御多祥御超歳被成奉恐賀候、小生事先々無異にて去ル六日伯靈<sup>(1)</sup>へ着府仕候、去ル十二年十二月三十一日馬耳塞<sup>(2)</sup>へ入港、同晩汽車ニ登り今十三年一月一日巴里府ニ着シ、同所ニ二日滞在、三日再ヒ汽車ニ登リストラスブルヒニ至リ大沢氏<sup>(3)</sup>ヲ訪ヒ、氏ノ導キにて去ル六日伯靈へ着府仕候、海路頗ル静穏にて定日ヨリ早く着港シ、欧州は己ニ厳寒ノ過ギシ後にて大ニ仕合せ仕候、在東京中ハ大ニ御配慮ニ預リ万謝之至、猶ホ此上トモ可然奉願候

○御届ケモノハ跡荷未タ着セズ候ニ付、着次第御届ケ可申候

○医学士諸氏モ皆々無異ニ候間御休意可被下候

○動植物学教授ジュードライン氏ハ定て頓ニ着京之事ト奉存候、如何ノ様子哉承り度モノト奉存候

○小生伯靈着後ハ頗ル繁忙、即チ訪方ノベゾーフ会場及ヒ開会ニ就てノ会議、又大学校モ訪ヒタク旧友モ尋ネタク、実ニ繁忙罷在候、尔し動物学士ペートル氏ニモ面会種々会話致シ、是ヨリ日々動物館へ参り候筈ニ仕候

○会場ハ ルイゼンストラセーノ ゲウエルベアウスステルルングノ隣地にて此度ノ新築故、頗ル広大且美麗ニ候、建築モ略ホ相調へ、我カ出品モ着次第同場へ運ヒ候積、開会ハ四月廿日ノ筈

○右之他ハ匆卒ノ際殊ニ重封ヲ厭ヒ相略シ候、頓ニ書翰可差出候処、着府早々養魚法伝習并ニ動物学研究ノ為メ、フライハルヒ及ヒ バーゼルー旅行仕候ニ付、大ニ延引ニ相成多罪此事ニ候、御免被下度先ハ是にて申洩候余ハ後便、早々頓首

十三年一月(欠)日

(内務省用箋使用)

- (1) 伯靈 ドイツ国ベルリンの事。  
 (2) 馬耳塞 フランス国マルセイユの事。  
 (3) 大澤氏 大澤謙二。明治11年より15年迄私費にてドイツ留学。後に帝大医科大学学長。  
 (注) 本書簡には出信・受信者名が欠落しているが、その内容より松原新之助が池田謙齋に宛てたものと思われる。

[235] 松浦 詮の書簡

松浦詮は旧肥前平戸藩主。詮の書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に4通掲載に付省略。

[236] 真中忠直の書簡

真中忠直は明治期の官僚・実業家。明治15年頃駅局1等駅通官勤務後、実業界に転じ磐城炭鉱(株)取締役等歴任。

1 明治(14)年1月19日 (2769)

謹啓、昨鳥は御繁忙中御光駕被下拜謝之至、其頃一寸申上候二十日懇親小集之儀品ニ寄御泊番可相成敷之由相伺候間、翌廿三日即第四日曜日<sup>(1)</sup>と仕候間、御繰合同日午後二三時頃迄ニ弊屋へ御枉車被下度、右御案内迄摺筆仕候也

一月十九日 真中忠直  
池田老閣 膝下

- (1) 明治期に1月23日が第4日曜日に当たるのは明治14年と20年とその外あるが、別の手紙に「小原君」とあるので(小原静氏は17年頃竹井静に改姓した)、この手紙は14年のものと推定される。

2 明治 年 月 2日 (2770)

(封筒表) 池田謙齋様 御診察被下度  
 (封筒裏) 市ヶ谷 真中忠直  
 霖雨鬱々敷候得共倍御清穆至欣不尽候、扱 三男義今暁より悪寒又ハ大発熱ニテ苦ミ居候間、何共恐入候へ共一寸也御枉車御診察被下度奉願候、右迄匆々頓首

真中 拝

池田大国手 台下

3 明治 年 7月 14日 (2771)

(封筒表) 池田謙齋様 下執事  
 (封筒裏) 真中忠直  
 久敷不得拜鳳候得共倍御清穆至欣不尽候、扱 本年も不相変頑生始メ家生一同等御診察相願万謝之至、随て表寸謝候迄左記之通り進呈仕候、御叱止於有之ハ大幸之至ニ有之候、右可得御意候、匆々

七月十四日 真中 拝  
池田老先生 研北

金三拾円也  
粗布 壹反  
○  
金五円也 小原君  
馬癸烟草<sup>(1)</sup> 一箱  
○  
金貳円也 御薬室中  
右之通り

- (1) 馬癸烟草 巻煙草か。

4 明治 年 12月 29日 (2772)

(封筒表) 池田謙齋様 外品添  
 (封筒裏) 真中忠直  
 窮陰除光無之御繁忙之御義可有之拜察之至ニ不堪候、扱 本年七月已降も家生一同等度々御診察相願万謝ニ不尽候、随て表寸謝まで左記之通り肅呈御叱止於有之ハ大幸之至奉候、右可得御意如是ニ候、匆々

念九日 真中 頓首  
池田大国手 帛皮下

記  
一、金貳拾円也  
一、袴地 壹反  
一、金五円也  
一、粗烟草 壹箱  
右小原君

一、金式門也  
右御葉室中  
已上

5 明治 年 月 14 日 (2773)  
(封筒表) 池田老台々下 容体書入  
(封筒裏) 真中忠直  
謹啓、荊妻義昨日ハ少々頭痛ニ苦ミ候よし、尤今朝ハ薄らぎ候へ共三四日間大便不利之趣ニ候間、右之原由候義ニハ有之間敷哉、御全様御投剂之程奉願候、勿々頓首  
十四日 真中 拜  
池田大国手 膝下

6 明治 年 月 5 日 (2774)  
(封筒表) 池田先生 平信  
(封筒裏) 真中忠直  
(前欠) <sup>(ママ)</sup>心経之為メ歎大分安眠を被妨候間、確に頭痛ニ相成幾分歎克く候へ共過頃之様子頓候義ニ在之熱度至て低落、本日之午後六時へクズ<sup>(1)</sup>当度来診候由、何卒御繰合御枉車御願申上候、勿々  
五日 真中 平臥頓首  
池田大国手 帛皮下

(1) ヘクズ ベルツ。東大医学部ドイツ人教師。

7 明治 年 1 月 25 日 (2775)  
拝啓、前夜ハ欠恭之至、扱其節或ル御来客之内ニて烟管御取違ひ之方有之、右ハ自然御心当りも候ハ、御一報被下度、此段得貴意候、拜具  
一月廿五日 真中忠直  
池田様

逐テ御心当りも無御坐候得は別段御報ヲ不煩候

8 明治 年 12 月 11 日 (2776)  
謹啓、月迫ニ候へ共倍御清穆至欣不尽候、本年七月已降寸謝として別紙之通謹呈仕候、御叱止於有之ハ大幸之至り奉候、右申上度候、勿々頓首  
窮陰月十一日 真中 拜具  
池田大国手 座下

9 明治 年 7 月 23 日 (3210)  
老母義昨七時三十分三十六度四分、今朝(欠)過頃は御繰合速ニ小野方迄御(欠)御診察、今午前六時迄下痢四行其他変りたる事無之(欠)参義ハ別段(欠)乍(欠)見苦敷ものニ候へ共、先生之御診察を乞上度とて遠路出京憫然之者ニ候間、何共汗顔之至ニ候へ共、一寸御診察投剂(欠)追々快方難有謝、同人親族より厚く申参り候、何れ其内拜鳳御礼可申上候へ共、序なから寸楮拜謝仕候、頓首  
二白、別啓(欠)  
七月二十三日 真中忠直  
池田大国手 膝下

10 明治 年 2 月 18 日 (3211)  
久々不得拜芝候得共、弥御安<sup>(ママ)</sup>体至欣不申尽候、扱頑生懇意ナルこの原卓爾と申もの過日より不快にて肺ニ関係可有之哉之掛<sup>(ママ)</sup>念有之よし、就ては御面倒様なから篤と御診断被遣度俯て願上候、右迄余は本人より可申上候間、よろしく御聞取被降たく、先ハ希候  
二月十八日 真中忠直  
池田大国手 膝下

11 明治 年 2 月 19 日 (3212)  
荊妻義、昨日御来診被降候後、宵来九時頃より今朝迄ニ下痢七行腹痛も少々有之、何分歎疲勞相増候様相見ひ候間、右御含ミ御投剂之程奉願候、勿々  
十九日 真中忠直  
池田大国手 膝下

12 明治 年 1 月 6 日 (3317)  
新禧恭賀、扱 荊妻義昨宵より今晚へ掛腹痛有之苦居候様ニ御座候間、本日ハ御見廻り被下度此段奉願候、勿々頓首  
一月六日 真中忠直  
池田大国手 膝下

13 明治 年 7 月 6 日 (3324)  
寸啓仕候、扱右腕ニ痛之義今以依然其頑なる困却

之至、尤喰味ハ大分よろしく相成候間、可然御投  
劑被降度、何れ不日拜趨御診察可奉願、右まで  
勿々頓首

七月六日 真中忠直  
池田大国手 虎皮下

14 明治 年 月 30 日 (3229)

肅啓、扱 次男啓二郎義今度ハ大分烈敷相発、迎  
も宅にて看護六ヶ敷様相考候間、寧願狂院ニ容れ  
候方可然と存候、就ては後 剋 拜趨御賢考可相伺  
候へ共、序なから一書啓呈相伺置候、勿々

三十日 忠直 拜具  
池田大国手 膝下

15 明治 年 10 月 13 日 (3517)

追々寒冷ニ候得共、弥御安穆至欣不申尽候、扱過  
頃出生之小兒、頭辺へ少々吹き出致候様相見申  
候、大毒と申程にも有之間敷候得共、一寸御診察  
奉願度、尤急ぎ之義ニハ無之御含置、御都合にて  
御枉車奉願候、右迄勿々

十月十三日 真中忠直  
池田大国手 研北

[237] 丸岡莞爾の書簡

丸岡莞爾は明治期の官僚。天保7年土佐藩士家  
に生まれる。明治15年式部権頭、16年内務省に  
転じ内閣大書記官歴任。31年没。享年63。  
(1836-1898)

1 明治 15 年 6 月 6 日 (2780)

(封筒表) 駿河台北甲賀町九番地 池田謙齋殿  
(消印 東京・一五・六・六・チ)(切手・一銭)  
(封筒裏) 緘 中六番町廿一番地 丸岡莞爾  
来十一日芝公園内能楽堂ニ於テ故坊城俊政卿<sup>(1)</sup>  
追福ノ為メ発起人ヨリ能楽相催候間、若シ御用閑  
ニ候ハ、御臨席被下度此段申進候也

追テ番組切符等御廻申上候也  
十五年六月六日 惣代 丸岡莞爾  
池田一等侍医殿

(添付書類)

一、明治十五年六月十一日 芝公園紅葉山

能楽来観証 壱名限 (裏 能楽社印)

一、当日演目書(略)

(1) 坊城俊政<sup>としただ</sup> 堂上公家。文政9年生まれ。宮  
中の祭祀・典礼を掌る。伯爵。明治14年9  
月16日没。享年56。(1826-1881)

2 明治 年 1 月 4 日 (3298)

御機嫌克御目出度、然は旧年御門下にて御厄介相  
願、早速御承諾を蒙ル土佐国村山時行と申者へ即  
時其由申遣候処、家内取片付等ニ手間取漸旧臘廿  
六七日頃出府仕り候、越年之際御都合も如何可有  
之哉ト存シ差扣弊屋ニ寓居爲致候、些何分宜御依  
頼仕候、尚委細之義ハ拜眉御差図可相伺候得共、  
御在宿時分一応差出御対面被下候様致度、履歴概  
略別紙之通ニ付御一覽被下候上何時參上仕候て宜  
哉御示被下度奉願上候、右要用のみ呈愚東候也、  
百拜

一月四日 丸岡莞爾  
池田国手先生 玉案下

[238] 万里小路博房の書簡

万里小路博房は公家華族。博房の書簡は日本医  
史学雑誌第54巻第4号に1通掲載に付省略。

[239] 三浦義純の書簡

三浦義純は東大医学部御用掛医員。帝大医科大  
学病理学教授三浦守治の養父。義純の書簡は『東  
大医学部初代総理池田謙齋』上巻に5通掲載に付  
省略。

[240] 三井高辰の書簡

三井高辰は三井新町家第9代当主。慶応3年伊  
勢に生まれる。三井合名会社・銀行・物産・鉱山  
の代表取締役を歴任。

1 明治 年 7 月 6 日 (920)

一翰呈上仕候、示来意外之御疎情ニ打過候段多罪  
御海容可被下成候、陳は尊台御儀去月来被存寄御  
病症之由拜承仕り驚入申候、無御困難之程奉遠察  
候、当節御容体如何ニ被爲在候哉、御伺奉申上度

候、何分暑氣弥増之候折角御加養奉祈念候、隨て不珍候へ共鶏卵老箱聊御見舞之驗迄ニ進呈仕度、御笑留被成降候ハ、大慶之至ニ御座候、右之段家族共よりモ御伺申出候、先ハ御伺申上度迄如斯御座候、頓首百拜

七月六日 三井高辰  
池田謙齋殿

### [241] 三井八郎二郎の書簡

三井八郎二郎は明治期三井物産社長。八郎二郎の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に1通掲載に付省略。

### [242] 箕作秋坪の書簡

箕作秋坪は幕末・明治期の啓蒙思想家。秋坪の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』上巻に1通掲載、未掲載分を記す

#### 2 明治 年12月15日 (951)

拝啓、逐日寒威相増候処、益御清迪被成御起居奉拝賀候、然は過日御留守中、罷出簾寄清二御診察之義相願候処、無御打捨御見舞被降候趣同人より申越難有奉万謝候、其内拝趨御見込之処も相伺候様可仕候、先ハ不取敢右御礼申上度如是御坐候、草々不宣

十二月十五日 箕作秋坪  
池田謙齋様

尚此もの甚た如何敷候得共、態と入御覽候、御笑留被下候得ハ本懐之至奉存候

#### 3 明治 年10月18日 (953)

拝啓、本日貴部於て製薬学卒業生徒え学位授与式被為行候ニ付、集参可仕旨寵招を蒙り難有奉謝候、然ルニ昨夜来冒寒之気味にて臥蓐罷在、拝趨仕兼遺憾之至ニ候得共御断仕候、草々敬白

十月十八日 箕作秋坪  
池田謙齋先生 貴下

### [243] 箕作麟祥の書簡

箕作麟祥は幕末・明治期の洋学者・啓蒙的官僚。麟祥の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』

下巻に6通掲載、日本医史学雑誌第57巻第4号に2通掲載に付省略。

### [244] 三野村利助の書簡

三野村利助は明治期の財界人。天保14年京都の商家に生まれる。三野村利左衛門の婿養子となり、三井銀行の監事、日銀の理事を勤める。明治34年没。享年59。(1843-1901)

#### 1 明治 年10月10日 (916)

(封筒表) 池田謙齋様 御親展 三野村利助  
(封筒裏) 封

拝啓、然は本日ハ永田甚七方へ尊来之儀奉願候処、直ニ御縁合被成降難有奉拝謝候、右ニ付猶奉願は大患之儀ニ付、御門人之内御老人当分拝借仕候様相願度、可成は今夜より御附可被降候ハ、一同案心之趣、何卒御承引奉願候、依テ親族之者一人差出し此段奉願候也

十月十日夜 三野村利助  
池田先生 坐下

### [245] 三吉慎蔵の書簡

三吉慎蔵は天保8年長州藩小坂家に生まれる。田辺家を経て三吉家の養子となる。幕末寺田屋事件の際坂本龍馬を助ける。維新後は北白川家の家令を勤める。明治34年没。享年71。(1831-1901)

#### 1 明治 年7月6日 (912)

愈御清康奉賀候、陳は梨本宮当地え御引移り後格別之御容躰ハ不被為在候得共、貴位乍御苦勞御縁合一兩日中ニ御診察トシテ同宮え御来車被下度、尤明日ハ午後三時より御留守ニ相成候、且御参邸之日時乍御手数御一報奉希候也

七月六日 三吉慎蔵  
池田謙齋殿

### [246] 牟田口元学の書簡

牟田口元学は弘化元年佐賀藩士家に生まれる。維新後工部省・文部省・農商務省に出仕。後に鉄道会社の経営者となる。大正9年没。享年76。(1845-1920)

1 明治 年 月 14 日 (3354)  
一昨日ハ御来診被下奉謝候、尔後漸々快方ニハ候得共、何分ニも不充<sub>レ</sub>分ニ付、例の午後を以容体申上候間、御面会被下度奉願候也

十四日 牟田口  
池田様

[247] 村岡範為馳の書簡

村岡範為馳は明治・大正・昭和期の物理・数学者。嘉永6年因幡国八頭郡(島取県)に生まれる。東京女子師範学校教諭勤務後ドイツ留学。帰国後東大医学部教授・東京音楽学校校長を経て京都帝大教授。昭和4年4月没。享年87。(1843-1929)

1 明治 11 年 8 月 22 日 (2785)  
(封筒表) 東京大学医学部 池田謙斎様 侍史  
(封筒裏) 十一月八月廿二日

在独逸国 村岡範為馳  
謹て一書ヲ呈シ候、愈勇男壯被成御座大慶之至リニ奉存候、随て小生義道中無事ニてストラスブルグえ到着、大澤氏ト共ニ勤学罷在候、着後直ニ一書ヲ呈スヘキ之処、彼是延引仕候段御寛容可被下候、扱此度ハ老母大病ニ掛リ終ニ死去セシ由去ル十九日報知シ来リ、就テハ病中ハ台下の高診ヲ受け色々御配意ニ預リシ由申来リ、万々難有奉存候、大澤氏の咄しニハ、台下嘗テ伯林御滞在之節、同様之不幸ニ逢ヘリト、嗚呼天道是乎非乎実ニ測ル可ラサル者ト存シ候

○日本ニ於テハ大久保卿斬殺の変より色々変革も有之、伊藤参議ハ内務ニ、西郷従道氏ハ文部卿ニ任セラレシ由、当地ニ於テモ独逸帝数度の変は御承知之通りなり、天下の変斯ノ如シ、况ヤ一人一家の変ヲヤ

○当地ハ先ツ氣候モ悪カラサル方、大<sub>レ</sub>学校ハ益々盛大ニ相成リプロフェッソールモ皆秀優なる故大ニ喜悅仕候、医学校より生徒ヲ独逸え送ラル、トカノ風説、医学者ノ為ニハ格別当地ヲ御進め申シテ可なりト愚察仕候

○当地仕執中ニ付、近々之内巴里博覧会え大澤氏同道ニテ参スル心存ニ御坐候、右ハ大略御礼御伺

旁一筆如斯ニ御座候、恐惶敬白  
十一年八月廿二日 村岡範為馳 頓首  
池田謙斎様 侍史  
二白、御自愛是祈

[248] 毛利元徳・元昭・家令・家扶の書簡

毛利元徳は旧周防山口藩主。元昭は元徳の嗣子。毛利元徳、元昭、家令、家扶の書簡は日本医史学雑誌第55巻第4号に10通掲載に付省略。

[249] 本尾敬三郎の書簡

本尾敬三郎は明治期の官僚。嘉永元年大阪に生まれる。行政裁判所評定官。

1 明治 年 3 月 2 日 (2662)

前略、愚妻事今朝少々降り物致し、且熱氣も少々有之候様相見候処、万一流産之前兆ニても無之哉と大ニ心配仕居申候、就てハ遠隔之所ニて多々恐縮之至ニ御座候得共、何卒一応御枉駕被成下間敷哉、三浦泰輔も此程中より病氣ニ付昇殿仕り度申居候得共、不得其意打過候ニ付、同人も拙宅迄為罷越置候得ハ一途ニ御診察も被相願候様被存申候処、万々恐入候得共、何卒御尊来被成降候様偏ニ奉希上候、先ハ取急右御願申上度如此御座候、敬具

三月二日 本尾敬三郎 九拜  
池田大先生 侍史

2 明治 年 6 月 26 日 (1647)

其後ハ打絶御無沙汰申上候処、御渾家様被遊御摘益御清穆奉拜賀候、扱三浦父事過日来不快ニ付小第方へ罷越保養致居候処、今朝より様子不宜十二時頃不計厠ニて気絶致、直様本心ニ相成候得共引続打臥居只今起出候処、歩行六ヶ敷様子ニ御座候、就てハ一応先生之御診察相願度奉存候間、明朝ニても御寸暇被為在候得ハ遠隔之処ニて多々恐縮之至ニ御座候得共、何卒御枉駕被成下度此段御願仕候、先ハ取急右御願申上候、早々敬具

六月廿六日 敬三郎 拜  
池田大先醒 侍史

## 3 明治 年6月29日 (2663)

一昨日ハ遠隔之所御尊来を煩千万難有奉厚謝候、老人事も御蔭ヲ以大ひニ快方ニ趣安心罷在申候、扱 愚妻事昨夜一字頃より出産之前兆ニて腰痛甚敷御座候処、今朝より只今ニ至るまで時々腰痛ハ有之候へ共、不絶眠り勝ニて出産可致模様ハ更ニ無御座候、就てハ小弟ニ於テハ勿論両老人も心中ニは大ニ心配致居候様子ニ付万一御寸暇も被為在候ハ、一応御尊来被成下間敷哉、實ニ遠隔之所ニて多々恐縮之至ニ御座候候へ共、乍略儀此段拙毫を以御願出仕候、先ハ不取敢右御願申上度如此御座候、早々頓首

六月廿九日 敬三郎  
池田大先生 玉案下

## 4 明治 年6月29日 (1646)

先刻御尊来を相願候処、愚妻事只今女子生産母子共壯健御座候間、此段不取敢御報申上候、就てハ甚恐入候得共、母并ニ小兒ニ対スル御葉頂戴相願度、万一此使之者へ御投与被成降候得は難有仕合奉存候、先ハ取急右御願申上度如此御座候、早々頓首

六月廿九日 敬三郎  
池田大先生 侍史中

[250] 元田<sup>ながざね</sup>永孚の書簡

元田永孚は明治期の儒学者。明治天皇の侍講。永孚の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に4通掲載に付省略。

[251] 森<sup>ありのり</sup>有礼の書簡

森有礼は明治期の文部行政官。有礼の書簡『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に2通掲載に付省略。

## [252] 安田善次郎の書簡

安田善次郎は明治・大正期の実業家。天保9年越中国富山下級武士の家に生まれる。明治初期金融界に乗り出し成功を遂げた安田財閥の創始者。大正10年没。享年84。(1838-1921)

## 1 明治15年7月10日 (2832)

(封筒表) 駿河台北甲賀町 池田謙齋様 侍史  
(封筒裏) 〆 七月十日

東京日本橋区小網町四丁目八番地

安田善次郎

(消印 東京・一五・七・□・ニ)

拝啓、陳は過日平臥中本所扣印ニ御来診相願候処、其節御風邪ニ被為在候由、御容体如何被為在候哉御案奉申上候、為国家之御保重専一ニ奉侍候、野生義追々快気ニ趣本日ヨリ出勤仕候間、左様御放念奉願上候、右御見舞旁如斯御坐候、敬々頓首

七月十日 安田善次郎 拝  
池田大先生 玉机下

## 2 明治 年5月31日 (2830)

(封筒表) 駿河台 池田謙齋様 乞貴答

東京日本橋区小網町四丁目八番地

安田善次郎

(封筒裏) 〆 五月三十一日

拝啓、薄暑之節ニ御座候処、益御清祥被為涉奉恭賀候、陳は先年御配慮相願候荆妻義、本年二月頃ヨリ又候持病相発、尔来知己之国手ニ為相任置候得共、昨今一層相重リ何分全快無覚束存候間、御繁忙之御中何共恐縮之至ニ奉存候得共、御来診被下置候得は忝此段乍略義奉願上候、就テハ自低之懇願ニは候得共、本日朝夕之中御枉車被下置候様奉伏願候也、敬々頓首

五月三十一日 善次郎 拝  
池田様 梧下

## 3 明治 年12月20日 (2833)

御懇書拝見仕候、愈御清祥被為涉候段奉恭賀候、然は御別荘之義詳細被仰聞大ニ安堵仕候、実ハ何歟御意ニ不叶事出来、夫故急ニ立退被仰付候事と深ク恐愕致、昨日早朝彼地へ罷越百方手を尽し相尋候処、兎角適当のもの無之、只一ヶ所見当り申候処、之レハ持主西洋人にて横浜ニ住居致し居候ニ付、本日相談ニ遣し可申答ニ御坐候、猶又今朝之より大磯・国府津辺ニ出掛、是非一兩日之内ニ引移可申候間、御沙汰ニ再ヒ兩三日之御猶子只管

相願申上候、先は右得貴意置候、匆々頓首  
十二月二十日朝 善次郎 拜  
池田男爵様 御坐右

4 明治 年12月23日 (2831)

拜啓、甚寒之候愈御清康被為涉恐悦至極奉賀上候、陳は鎌倉御別荘永々拜借仕、猶又自低之御願等申上候段奉深謝候、御高底を以万事好都合相運一昨日大磯ニ引移申候、右ニ付甚粗末之品ニ候得とも二種呈上仕候、聊御礼之印迄ニ御坐候、何レ參殿拜謁之上可奉万謝候得とも、不取敢以使者如斯御坐候、匆々頓首

十二月廿三日 安田善次郎  
池田男爵殿 御坐右

#### [253] 谷田部梅吉の書簡

谷田部梅吉は明治期の物理学者。安政4年出羽国に生まれる。東大物理学科卒業後東京物理学講習所(東京理科大学の前身)設立、所長となる。東大図書館長を勤める。明治36年没。享年47。(1857-1903)

1 明治 年12月22日 (2834)

(封筒表) 池田謙齋殿 敬復  
(封筒裏) 封 十二月廿二日 谷田部梅吉  
鳳墨奉拝誦候、大学親睦会幹事先番より引続き候処、未熟者にて幹旋甚無覚東万端可然御示教被成下度奉願候、石原氏<sup>(1)</sup>ニ周旋委托之義ハ至極御同意仕候、尚又期日等之義ニ付てハ不日拜趨尊意可奉相伺候、敬白

十二月廿二日 谷田部梅吉  
池田謙齋殿

(1) 石原助安 東京大学医学部予備門書記。

#### [254] 矢田部良吉の書簡

矢田部良吉は明治期の植物学者。良吉の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に1通掲載に付省略。

#### [255] 柳原前光<sup>やなぎわらさきみつ</sup>の書簡

柳原前光は公家華族。前光の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に4通掲載に付省略。

#### [256] 矢野二郎の書簡

矢野二郎は明治期の洋学者・外交官・教育者・実業家。弘化2年江戸幕臣家に生まれる。維新後外務省に入り駐米代理公使、東京府商法講習所々長(後の一橋大学)を勤め、商業教育の基礎を築く。又共立女子職業学校(後の共立女子大学)の設立に関与する。明治39年没。享年62。(1845-1906)。妹 栄子は益田孝の妻。

1 明治 年12月27日 (2842)

拜啓、陳は過日は御不快之処おして御逢被下難有奉存候、扱昨日益田孝<sup>(1)</sup>え御返書之趣同人より申越御尤千万、畢竟御繁劇之御場合おし測り印東<sup>(2)</sup>え日診を頼ミ、同人ハ先生之御方剂ニ従ひ治療いたし居候事故、折節は御繰合御見舞置被下候て印東え御相談タケハ被下候様奉願度心得、就ては可成度々御繰合御見舞置被下候様切望仕候、入院治療之事ハ病人へ申聞候処何分女の事故、事理明解不仕殆困却、よつて壺室をガラス障子目張等いたしストーフを置据六十五度<sup>(3)</sup>之温度ハ平均保チ候様いたし大小便共々此室内にて為致居候間、左様御承知置被下候、尚其内御出現場御覧之上不十分なる所ハ宜しく御指揮を乞候、右は益田孝より願之趣御承諾ニ対し御礼旁温室自宅ニ設ケ候事共申上置度迄、匆々頓首

十二月廿七日 矢野二郎  
池田先生 貴下

尚ハ浮腫ハ逐日増進如何ニモ重体 関<sup>(マツ)</sup>心ニ堪へス候、委細ハ印東より申上候等ニ御坐候

(1) 益田孝 明治期の三井物産会社々長。茶人・美術愛好家。男爵。

(2) 印東玄得 嘉永三年紀伊国に生まれる。明治9年東京医学校卒業、12年東大助教授、19年東大退職後、開業医となる。明治28年没。享年46。(1850-1895)

(3) 華氏65度は摂氏18度3分。



[257] 山尾庸三<sup>ようぞう</sup>の書簡

山尾庸三は明治期の官僚。庸三の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に6通掲載に付省略。

## [258] 山岡鐵太郎の書簡

山岡鐵太郎は幕末・明治期の政治家・剣術家・書家。鐵太郎の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に2通、日本医史学雑誌第57巻第4号に3通掲載に付省略。

[259] 山縣有朋<sup>やまがたありとも</sup>・伊三郎の書簡

山縣有朋は明治・大正期の陸軍軍人・政治家。有朋の書簡は『東大医学部初代総理池田謙齋』下巻に50通、日本医史学雑誌第57巻第4号に8通掲載に付省略。伊三郎は養嗣子。明治・大正期の政治家。伊三郎の書簡は日本医史学雑誌第57巻第4号に1通掲載に付省略。

[260] 山口宗義<sup>むねよし</sup>の書簡

山口宗義は明治期の内務省官僚。嘉永4年出雲松江藩に生れる。大蔵省に出仕し大久保利通・松方正義・大隈重信の下で国家財政に携わる。

1 明治 年8月29日 (2943)  
 (前欠) 別封金七円あまり軽微之至り顔厚忸怩ニ候得共、聊御礼之印までニト之ヲ左右ニ進呈仕り度奉存候、もし其葦薄ヲ咎メラレズ御笑留被下置候得は宗義之至幸此事ニ御坐候、書余ハ不日参趨万謝可奉申述候、勿々頓首

八月廿九日 山口宗義  
 池田五位殿<sup>(1)</sup>  
 執事

(1) 池田謙齋は明治12年12月15日より19年10月27日迄正5位。

2 明治 年6月30日 (2944)  
 口代

此中参殿大先生御来診奉願、本日は御光臨被下候様奉候候処、如何様之御模様ニ御坐候哉、病人ニ

於テモ只管御待申上居候間、何卒今夕ハ御光車被成下候様御執成之程奉希候、先ハ右御容子奉候度、妹好差出申候間、乍御面倒御一報奉煩候、草々拝具

六月卅日 山口宗義 代安井泉  
 池田様  
 御取次中様

## [261] 山崎佐の書簡

山崎佐は弁護士。

1 昭和12年1月7日 (2945)

(封筒表) 杉並区西田町一ノ七三一

池田真次郎様 侍史

(消印□京中央 十二・一・七)

(封筒裏) 封印 昭和十二年一月七日

東京市麹町区丸ノ内二丁目

丸ノ内ビルディング四階四五〇区

山崎佐 法律事務所

電話 丸ノ内三九九二番

拝啓、新年の御慶芽出度申納候、陳は先年の鑑定書並に起案料に付き、金一封(貳拾円)御送付被下正に拝受仕候、本日始めて事務所に参り候為め御返事遅れ申訳無之候、先ハ御挨拶まで、敬具

一月七日 山崎佐

池田真次郎様 侍史

(山崎佐 法律事務所用箋使用)

## [262] 山崎直胤の書簡

山崎直胤は明治期の官僚。嘉永5年豊前国に生まれる。山梨・三重県知事、宮内省調度局長、山階宮別当等歴任。大正7年没。享年67。(1852-1918)

1 明治18年11月15日 (2947)

拝誦、御賢息様<sup>(1)</sup>愈明後十七日御出発ニ付、今晚御祝宴被為開小生迄も御案内之礼、御懇情難有奉存候、何歟ハ差措必ス拜趨可仕、此段御請迄、勿々拝具

即時 直胤

池田先生 閣下

(1) 御賢息様 池田謙齋の長男 秀男の事. 秀男は明治18年11月ドイツ留学の為出発する.

2 明治 年4月27日 (2946)

(封筒表) 池田先生 閣下 山崎直胤

(封筒裏) 〆

拝啓、明日ハ御供奉之由御苦勞之御義ニ奉存候、小生義去ル廿四日朝限り下利並ニ服痛共ニ相止り、舌色も昨日来追々宜、今日ニては殆ント此回発病前之有様ニ迄回復之様被存申候、是と申も色々御高配之御蔭難有仕合ニ奉存候、昨夕より粥杯食シ始メ申候、併シ此際胃之方充分御療治相願度、二三日御留主ニ相成候事故、何卒明日より之服薬御方御左右へ御教示被下置度、水薬も猶ホ相用可申哉、右等今夕参上相伺可申奉存候へ共、御出立之際殊ニ夜分御邪魔申上候も恐縮ニ付以書中奉願候、草々敬具

四月廿七日 直胤

池田先生 閣下

3 明治 年1月21日 (2948)

(封筒表) 池田侍医殿 侍史御中

(封筒裏) 〆 山崎直胤

拝啓、御多忙之御中 degree 々御来診被成下難有仕合ニ奉存候、御蔭ニて昨夜ハ咳も余程柔キ且少ク安眠仕候、但下利<sup>(マツ)</sup>未タ相止不申、今朝も二回水瀉仕候、熱ハ全ク相去候様覚へ申候へ共、其割ニハ舌色改良不仕食気相起り不申候、因て可然御加減奉願候、草々頓首

一月廿一日 直胤

池田先生 閣下

4 明治 年3月10日 (2950)

(封筒表) 駿河台 池田侍医殿 侍史上置

山崎直胤

(封筒裏) 〆

過刻ハ尊来ニ預候処、不在中残念ニ奉存候、小生も明日横浜迄出浮候積ニ御坐候処、明日勲章授与式被為行旨御達ニ有之、且船も未着ニ付明後日ニ相延申候、就ては明朝参内カケ一寸参殿御診察相願度心得ニ御坐候、尤若シ朝御留主ナレハ午後二

時頃帰宅カケ相伺可申奉存候、態々尊来ハ恐入候ニ付、一寸此段申上置候、草々頓首

三月十日夜

直胤

池田大先生 榻下

5 明治 年9月13日 (2951)

本年は尊大人御七回期ニ被為当候趣ニて、見事之御品御恵投被成下難有受取仕候、且御懇命ニ随ひ来る十六日ニは必ス参殿可仕奉存候、嘗テ英国へ御留学、当今太政官大書記官尾崎三良<sup>(1)</sup>ト申人、先生之御診察相願度由ニて近日参上仕度段申居候、日々御多忙之御中ニ御坐候へ共、何卒御診察被成下置度、訳て小生より奉願候、先ハ右願用旁、草々頓首

九月十三日

山崎直胤

池田先生 虎皮下

(1) 尾崎三良<sup>きぶろう</sup> 天保13年京都に生まれる。三條実美に仕え幕末期活躍。明治元年より6年迄英国留学。太政官・内務大丞歴任。貴族院議員。男爵。大正7年没。享年77。(1842-1918)

6 明治 年1月17日 (2952)

来ル廿日御祝宴被開候ニ付、荆妻共々参会之御懇命ヲ辱フシ難有奉存候、必ス拝趨之榮ヲ得可申候、御請迄、草々敬具

一月十七日

山崎直胤

池田殿 侍史

(山崎直胤の書簡は次号に続く)

#### [主要参考文献]

- 朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社 1994年11月30日発行  
池田文書研究会編『東大医学部初代総理池田謙齋』上・下巻思文閣出版 2007年2月25日発行  
大植四郎編『明治過去帳』東京美術 1971年11月20日発行  
日本医史学雑誌第54巻第4号 2008年12月発行  
日本医史学雑誌第55巻第4号 2009年12月発行  
日本医史学雑誌第57巻第4号 2011年12月発行